

関連項目：教育活動プラン①、②

共感的に受け止める教師・活躍できる児童の在り方 チームで協力し、かかわり方を身に付ける児童の在り方

目的

本校の児童は、縦割り活動を中心に異年齢集団活動が広がりつつありますが、高学年の「低学年を助けようとする態度」に個人差が大きいという課題があります。また、児童は全体的に素直で活動的ですが、様々な活動に対して主体的に取り組もうとする態度は十分ではありません。そこで、異学年交流を推進したり、SSTを行ったりして、人間関係作りを学ばせて、人とかかわることの楽しさを味わわせたり、児童相互の称賛の場を工夫し、互いに認め合うことにより、自尊感情を高めたりすることを目的に活動に取り組みました。

内容

● 学級活動でのSSTの導入

学期に1回、それぞれの学年の発達段階に合った、社会性を育てるソーシャルスキルトレーニングを行い、伝え方を学んだり、自己や他者を理解したりしました。

〔具体例〕

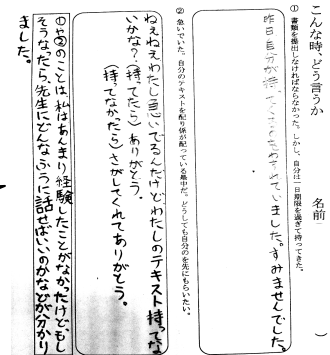
低学年では、これからの小学校生活でお世話になる先生方に挨拶をしたり、自己紹介をしたりして先生方の顔と名前を覚え、仲良くなりました。

高学年では友だちに物事を頼むときや提出物を出すのが遅れたとき、一言足りない児童が少なくありませんでした。SSTの授業では、自分の考えを書き、それをもとに発表し合いました。

クラスで起こった具体例を挙げ、「こんな時どうするか」児童に考えさせロールプレイングしました。



1年生「サインをください」



● 縦割りグループ（わくわくタイム）の活動

異年齢集団の特性を生かして、互いに協力し合ったり、助け合ったりする体験を通して、一人ひとりの自尊心を高め、学校生活をより豊かで楽しいものにすることを目標として取り組みました。

わくわくタイムの活動内容は、6年生の色別リーダーが中心となって各担当教師と相談の上、決定しました。具体的には、4月の「1年生歓迎わくわく遠足」での集会に始まり、毎月異学年でゲーム等の活動をしたり、弁当の日には一緒に食べたりしました。



異学年との交流

成果

SSTの活動を通して、普段あまり会う機会のない先生や異学年の友だちと触れあうことで、目上の人に対する礼儀正しい態度を学ぶことができたり、たくさんの方が見守ってくれていることを実感したりし、小学校生活に安心感を抱くことができました。校内のアンケートでも、90%以上の児童が「学校が楽しい」「役に立つ行動ができています」と答えていました。

また、縦割り活動でも、自分自身が「認められている」「必要とされている」という自己肯定感や自尊感情を高めることができている児童が多かったようです。

職員間での共通理解、児童とともに学ぶ意識をもつという姿勢や児童に対する言葉かけ、「ほめて伸ばす生徒指導」等が効果を上げるためのポイントだと思います。